

# 明るく活力ある長寿社会の実現を

## —「かながわ長寿社会開発センター」の紹介—

人口の高齢化が急速に進む中、だれもが健康でいきいきと高齢期を過ごせる社会を築くことが重要となっています。本会では、本年四月の財団法人かながわともしび財団との組織一体化に伴い、これまで財団が担ってきた「明るい長寿社会づくり推進機構」の役割を引き継ぎ、「かながわ長寿社会開発センター」を新たに設置しました。

今回の特集では、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり活動の支援を通して、活力ある高齢社会の実現を目指す「かながわ長寿社会開発センター」の役割と、取り組みについてまとめてみました。

### 本格的な高齢社会の到来に向けて

人生八十年時代を迎え、多くの人が健康でいきいきとした高齢期を過ごしたいと考えています。自分の経験や知識を、地域で取り組まれていく様々な活動に生かしている高齢者、また、これから生かしたいと考えている高齢者も少なくありません。体力増進・健康保持、趣味や教養の学習活動が、生きがいや身近な地域での仲間づくりにつながり、後に地域を活性化するように地域福祉の担い手として、大きなマンパワーになっていく例が数多くあります。

わが国の高齢化率は、昭和六十年に一〇％に達しましたが、平成三十七年には、四人に一人、二十五年後の六十二年には、三人に一人が六十五歳以上の高齢者となることが予想されています。

このような急速な高齢化の進展と、本格的な高齢社会の到来に備え、人生八十年時代にふさわしい経済社会システムの構築を目指すため、国は、昭和六十一年六月の「長寿社会対策大綱」以降、社会福祉の基礎構造改革を進め、平成十一年のゴールドプラン21、翌十二年の介護保険制度施行等、様々な改革を推進してきました。

特にゴールドプラン21では、平

成十五年までの高齢者保健福祉施策の方向として、介護を要する高齢者への施策の充実と、元気な高齢者の生きがい・健康づくり、介護予防、生活支援対策等を、いわば車の両輪として捉え、高齢者の尊厳の確保と自立支援を図り、できる限り多くの高齢者が健康で生きがいを持って参加できる社会づくりを目指すことをあげています。



全国健康福祉祭(ねりんピック)のようす

### 本県のこれまでの取り組み

高齢期の生きがい・健康づくりを促進するため、中央に「財団法人長寿社会開発センター」が、都道府県には「明るい長寿社会づくり推進機構」がそれぞれ設置されています。

本県では、平成四年四月に設立

された財団法人かながわともしび財団(以下、財団)が、ノーマライゼーションの理念のもと、「ともに生きる社会づくり」を公私協働で進める「ともしび運動」の推進と併せ、「明るい長寿社会づくり推進機構」の役割を十年に渡り担ってきました。

高齢者の生きがい・健康づくり推進事業の取り組みは、財団の行うともしび運動の認知度とともに、県民の理解と主体的な活動参加を着実に広げ、運動体としての成果をあげていきました。その更なる発展を願い、また社会福祉法に、改めて地域福祉推進主体として期待され位置づけられた社協の機能強化と、運動体としての充実



シニアグループによる活動発表(かながわ高齢者文化祭)